

2024年9月3日

立教大学国際学術研究交流制度
2024年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	異文化コミュニケーション学部・助教
氏名	シ ゲンギン
派遣機関名	Department of Anthropology, Faculty of Humanities, University of Cape Town 所在国：南アフリカ共和国
研究テーマ	南アフリカに進出したアジア系企業と現地労働組合の組織間関係
派遣期間	2024年8月1日～2024年8月31日（31日間）
研究経費	679,190円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。

活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2024年8月1日	出国
2024年8月3-7日	ケープタウン大学人文社会科学研究科で研究発表を行い、受け入れ研究者のフランシス・ニャムンジョ教授や同研究科の研究者たちと意見交換。また、ケープタウン大学で以下の研究者と意見交換した。 スーザン・レヴィン教授：人文社会科学研究科人類学専攻 ジェレミー・シーキングス教授：政治学・社会学研究科
2024年8月8-15日	南アフリカ全国金属労働者組合、南アフリカ労働組合会議、労働研究センターでアジア系企業と現地労働組合の関係に関する資料収集及びインタビュー調査
2024年8月16-23日	ケープタウン地域の若者起業とスタートアップ企業に関する資料収集及びインタビュー調査、若手女性のデジタル起業サポート活動への参加
2024年8月24-29日	西ケープ州投資貿易振興局でアジア系企業の投資に関する資料収集、インタビュー調査
2024年8月30日	現地出発（翌日帰国）

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

アフリカは「最後のフロンティア市場」として注目を集めており、日本でも企業のアフリカ進出が重要な課題となっている。その中でも南アフリカはアジア系企業が多く進出する重要な経済拠点だが、同時に労働組合運動の盛んな国としても知られている。筆者自身は2016年以来南アフリカに進出したアジア系企業の人材育成に注目している。今回訪問したケープタウン大学には南アフリカの労働組合と産業の関係や人種主義を専門とする研究者が数多く在籍している。今回の訪問の主たる目的は人文社会科学研究科のフランシス・ニャムンジョ教授、政治社会科学研究科のジェレミー・シーキングス教授らと意見交換し、南アフリカにおける労働環境の最新状況を把握することである。

ケープタウン大学人文社会科学研究科での発表を通して、「賃金の平等」と「外資企業の生存」について意見交換できたことは大きな収穫であった。この問題については研究者の中でも意見が分かれており、南アフリカ政府が定めた最低賃金は労働者の権利を守る一方、労働集約型の外資企業を失い、失業率を高騰させてしまうという副作用がある。多くの研究者と意見交換することで、よりバランスのとれた視点を得られた。特に、「Children of a Bitter Harvest: Child Labour in the Cape Winelands」や「Inclusive Dualism: Labour-intensive Development, Decent Work, and Surplus Labour in Southern Africa」のような文献を勧められ、南アフリカの労働問題と国の歴史、政府の政策策定のつながりについての理解が一層深まった。

また、南アフリカ全国金属労働者組合、南アフリカ労働組合会議での調査を通して、企業が実際にどのように労働組合と交渉し、賃金闘争をめぐって自分の立場を守るのか、自動化によって労働力を減らす戦略はどこまで実現可能なのかについて、意見交換ができた。さらに、南アフリカがBRICsの加盟国として、貿易や製造業において有利な立ち位置を得るにはどのようにするべきかについても議論ができた。

そして、ケープタウン地域の若者起業やスタートアップ企業における調査を通して、南アフリカのICT産業やAI産業の状況をある程度把握できた。特に、あるインキュベーションが主催した若手女性の起業サポート活動では、南アフリカにおける女性のエンパワーメントや起業家が直面している課題について知ることができた。

西ケープ州投資貿易振興局でのアジア系起業の投資に関するインタビュー調査では、現在の西ケープ州の投資環境や主な課題を把握できた。その際、海外投資を誘致する担当者と直接交流できたことによって、これまで抱いていたアジア企業の南アフリカ進出についての疑問点を解消できた。

これらの調査中に、ケープタウン大学国際推進課の担当者や Wubuntu というアジアとアフリカの文化交流を促進するスタートアップ企業の担当者と交流ができ、現在ケープタウン地域で運営されている留学生向けの文化・社会体験活動について情報収集、意見交換ができたことも、大きな成果である。

今回の研究成果を米国で開催される African Studies Association (ASA) 学会で発表するとともに、「Factory 4.0 - Manufacturing Futures and Their Horizons」という論文集に投稿する予定である。今後も引き続き、南アフリカの製造業とAI産業の動向に注目し、投資政策と産業発展の連携も視野に入れながら、「賃金の平等」と「外資企業の生存」という問題に対する解決スキームをより深化させることを意図している。

今回の訪問は、夏季休暇中であつたにもかかわらず、今までの研究成果について直接意見

を伺ったり、今後の連携の可能性についてさまざまな側面から協議したりでき、非常に有益なものであった。この訪問で得たものを今後の研究ならびに教育に生かしていきたい。



ケープタウン大学人文社会科学部で研究発表と意見交換



Labor Research Center で資料収集およびインタビュー調査



ケープタウンのインキュベーションで若手女性のデジタル起業サポート活動に参加